

猿投山を記憶と記録に残したい

北山台在住

遠藤 千 さん (74歳)

豊田市と瀬戸市にまたがる猿投山。遠足やハイキングで訪れた思い出のある人もいるのではないのでしょうか。

諸輪百々には県指定史跡の「黒笹七号窯」があります。これは猿投古窯群のひとつであり、実は猿投と東郷町は縁があるのです。

猿投山の山頂には、看板とともに登頂した記念として名前を書くことのできる「登山表」が置いてあります。今回は、この登山表を20年以上二人で管理している遠藤千さん(以下「遠藤」表記)にお話を伺いました。



——まず、猿投山は、どんな山でしようか。

遠藤 北山台からだだと車で30分くらいで行ける、身近な山です。標高は628mと高すぎず、子ども

でも高齢の人でも登ることができそうです。

——どうして猿投山の山頂に登山表を置こうと考えたのですか。

遠藤 猿投山に登る人たちの励みになるものがあれば、と思ったのがきっかけです。登るだけでも楽しいですが、何回も猿投山に登り続けるためには、記録に残すことで達成感を持ってもらうことがいいと思い、登山表を置きました。豊田市の観光担当部局に「登山表を置きたい」と話しを持ちかけたところ快諾していただけたので、始めることができました。もう20年以上前のごことです。

——遠藤さんは、登山表を置いてからどのくらいの頻度で猿投山に登っていますか。

遠藤 雨の日は危ないので登るのを控えているため、平均すると2日に1回くらいのペースかと思えます。手元にある3月の記録を見ると、22日間登っていますね。

——たくさんの人が名前を書いていますね。どのようなお気持ちですか。

遠藤 最初の頃は数人からスタートしましたが、今では1枚では収まりきれないほどの人が書いてくれています。登山者の皆さんの励みになってくれていればうれしいです。

登山は「どこに次の足を置こうか」など考えながら歩くので、頭も体も動き健康にとてもよい。また、登る度に顔なじみが増えるのも楽しみのひとつ。アクセスもよく程よい高さの猿投山に、老若男女問わずぜひ東郷町にお住まいの皆さんにもお越しいただき登山表にお名前を書いてもらいたいです。

——お一人での活動ということもあり、続けることは大変だと思います。やめようと思ったことはありませんか。

遠藤 ありません。これまで登山表に記録してくれている人たちのことを思うと、続ける気力がわいてきます。ただ、過去には下山中に転倒して肋骨を折ってしまったことがあり、そのときは少しつらかったですね。

——最後に、猿投山の魅力を教えてください。

遠藤 都会からほど近い自然であ



り、とてもきれいな山です。春には桜、秋には紅葉を楽しむことができます。いろんな生き物が生息しており、二ホンカモシカに出会うこともあります。登山表も魅力のひとつとして、多くの人に知ってもらい、猿投山に登るきっかけになればうれしいです。これからも登山者の励みになるよう、登山表を置き続けていきたいです。

——猿投山を愛する気持ちと、猿投山に登る人への思いやりをひしひしと感じました。これからも登山者の記憶に残るよう、登山表の記録を続けて猿投山の魅力を発信してください。